

<事業等のリスク>

①財務に関わる機会とリスク

| 財務リスク | 関連する機会とリスク (○機会 ●リスク) | 味の素グループの主要な取り組み | 貢献するSDG sのゴール | 中計で掲げる戦略への影響 | 影響の大きさ | 発現の蓋然性、時期 | 評価 | 前年比較 |
|------------|--|--|---------------|---|--------|-----------|-------|------|
| 減損 | ●買収した子会社等の事業計画未達 ●金利の急激な上昇 | ・企業提携等審議会や経営会議等における買収価格の適切性に関する審議 ・買収後のシナジー実現に向けたフォローアップやマクロ経済環境の定期的なモニタリング | — | 財務目標の未達、金利上昇により生活者への新たな価値提案に向けた成長投資が遅れ、オーガニック成長が減速。 | 中 | 高 | 極めて重要 | ↓ |
| 資金調達 | ●金融危機による資金の枯渇 ●格付けの低下 ●各種リスク要因により計画を達成できないことで生じる追加の資金調達などのリスク発生、格付けの悪化 | ・資金調達先及び期間の適度な分散 ・財務体質の維持・強化 ・各種リスク要因の適時の分析と対応、最新の情報に基づく適時の計画の見直し | — | 資金の不足による成長投資の遅延に伴う顧客への新たな価値提案の遅れ、オーガニック成長の減速。 | 中 | 中 | 重要 | → |
| 得意先の経営破綻 | ●海外を含めた予期せぬ得意先の経営破綻の発生 | ・情報収集、与信管理等、債権保全 | — | — | 小 | 中 | 注視 | → |
| 為替・金利変動リスク | ●為替・金利の変動による海外での事業活動の停滞 ●為替・金利の変動による海外子会社業績の円貨への換算への影響 | ・為替予約および変動金利から固定金利へのスワップ等 ・親会社を含めた為替変動リスクの低い国での資金調達 | — | — | 小 | 高 | 注視 | → |
| カントリーリスク | ●取用リスク ●戦争や紛争等の発生リスク | ・進出国の適度な分散 | — | — | 中 | 低 | 注視 | → |
| 租税制度の変動リスク | ○制度改正による将来税負担の減少 (例: 米国税制改正) ●制度改正による事業運営コストの増加 (例: ブラジルにおける付加価値税) | 税務リスク対応策の一例として「グローバル・タックスに関するグループポリシー」を以下参照 https://www.ajinomoto.com/jp/activity/policy/global_tax_policy.html | — | — | 小 | 高 | 注視 | → |
| 税効果の変動リスク | ○●将来課税所得の見積り変更などによる税金費用の減少または増加 | ・各国における税制や税務行政の変更への対応策を実施 ・税金および税務関連費用を最小化する方策またはスキームを立案実行 | — | — | 小 | 高 | 注視 | → |

②マテリアリティ

| マテリアリティ項目 | 関連する機会とリスク (○機会 ●リスク) | 味の素グループの主要な取り組み | 貢献するSDG sのゴール | 中計で掲げる戦略への影響 | 影響の大きさ | 発現の蓋然性、時期 | 評価 | 前年比較 |
|-------------------------|---|---|---------------|--|--------|-----------|-------|------|
| 食と健康の課題解決への貢献 | ○生活者の健康意識、健康ニーズの高まり ○健康・栄養課題の深刻化による食習慣の見直し ○ブランドへの信頼獲得 ○企業価値の向上 ○健康・栄養関連の規制強化 (砂糖税等) ○予防予防への食と栄養の関与 ●健康・栄養分野における競争激化・劣後リスク | ・おいしく摂取し、心身のすこやかに繋がる食品・アミノ酸製品およびメニューの提供 ・うま味によるおいしい減塩 ・減糖、減脂 ・たんぱく質摂取の推進 ・「アミノインデックス技術」による予防医療への貢献 ・当社グループ製品が満たすべき栄養基準の整備 ・生活者一人一人への栄養改善の個別提案 (パーソナル栄養) | | 健康を軸とした生活者への価値提案力の低下、および提案の競争力低下による生活者受容の低下。 | 大 | 中 | 極めて重要 | → |
| 生活者のライフスタイルの変化に対する迅速な提案 | ○共に食べる楽しさ・喜びの提供による企業レピュテーションの向上 ○デジタル活用等による新しい価値の創造 ●生活者のライフスタイルの変化、価値観の多様化への対応遅れによる成長機会の損失 ●生活者のライフスタイルの変化による既存事業への影響 (調理時間の短縮、調理技術の低下、食品流通の変化) | ・食を通じた人と人のつながり・コミュニティの創出 ・ビッグデータ・生活者データの活用によるマーケティングの高度化 ・スモールマス (都市化等) への対応強化 ・製品・サービス・情報のお客様への適切な届け方の実践 ・スマートな調理等、簡便ニーズに対応した製品・サービスの拡充 | | — | 中 | 高 | 極めて重要 | → |
| 製品の安全・安心の確保 | ○お客様の満足度向上によるブランドへの信頼獲得 ○ステークホルダーへの適切な情報公開による信頼獲得 ●うま味・MSGに対するネガティブな風評の拡大による事業への影響 ●製品の品質クレーム・トラブルによるお客様からの信頼低下 | ・製品パッケージやWEBでの適切な情報共有 ・「お客様の声」の製品・サービスの開発・改善への反映 ・うま味・MSGの価値共有のためのコミュニケーションを強化 ・味の素グループ品質保証システム「ASQUA (アスカ)」に基づく品質保証活動の徹底と人材育成 | | — | 小 | 高 | 注視 | → |
| 多様な人材の活躍 | ○働きがいの向上による会社の成長 ○イノベーションが起きやすい環境づくり ●人材獲得競争の激化によるコスト上昇 | ・エンゲージメントサーベイを活用したPDCAサイクルの推進 ・ダイバーシティ推進に向けた組織風土改革 ・女性人材の育成・登用 ・健康経営の推進 ・人権教育・啓発活動 ・従業員の「ASVの自分ごと化」促進 ・イノベーション創出のための企業文化醸成 (統合型アクセラレータープログラム) | | 多様な人材が活躍できないことによる計画の実行力、および食と健康の課題解決力の低下。 | 中 | 中 | 重要 | → |
| 気候変動への適応とその緩和 | ○脱炭素に向けた外部連携 ●脱炭素への取り組み遅延、炭素税の負担増加による生産コスト上昇 ●気候変動による原材料調達不全 ●気候変動への対応遅れによる企業価値毀損 | ・製品ライフサイクル全体でのカーボンニュートラルに向けた長期的な取り組み ・生産時・輸送時のエネルギー削減の取り組み ・再生可能エネルギーへのシフト ・TCFDに対応した情報開示 (シナリオ分析等) ・飼料用アミノ酸による環境負荷低減 (土壌・水質汚染の低減) | | — | 大 | 中 | 極めて重要 | ↑ |
| 資源循環型社会実現への貢献 | ○環境に配慮した素材の開発 ●廃棄物削減、リサイクルへの取り組み遅延による企業価値毀損 | ・生分解性が高いアミノ酸系洗浄剤の供給 ・容器包装の3R推進 (プラスチック廃棄物の削減等) ・環境対応型包装資材 (単層材/生分解性プラスチック/植物由来原料/認証紙) の使用 ・環境ラベルの普及 ・製品パッケージを活用したプラスチック廃棄削減訴求 | | — | 中 | 高 | 極めて重要 | ↑ |
| フードロスの低減 | ○返品・製品廃棄の削減の取り組みによるコスト削減 ●フードロス低減の取り組み遅延による企業価値毀損 | ・原料をムダなく活かすモノづくりの実践 ・デジタルを活用したSCMの高度化・効率化 ・賞味期限延長等による返品・製品廃棄の削減 ・お客様の使用時のロス削減 ・おいしく残さず食べ切る「食エコ」提案 | | コスト上昇による、食と健康の課題を解決を通じて効率性高く成長できる収益構造実現 (ROIC向上) の遅れ。 環境対応の不足によりブランド価値が毀損することによって、提供価値が低下、または提供価値への信頼が低下する。 | 小 | 中 | 注視 | → |
| 持続可能な原材料調達 | ●サプライチェーン上の品質問題発生による原材料調達不全・製品回収 ●サプライチェーンにおける社会・環境問題への対応遅れによる原材料調達不全、企業価値毀損 ●食資源の枯渇による原材料調達不全 | ・公正な事業慣行マネジメントの実践 (トレーサビリティ等) ・サプライヤーのサステナビリティ推進 ・人権デュー・ディリジェンス ・重要原材料の特定と責任ある調達 (紙、パーム油、かつお等) ・公正な競争の確保と従業員教育の徹底 ・コプロ活用による持続可能な農業への貢献 | | — | 中 | 高 | 極めて重要 | ↑ |
| 水資源の保全・生産時の水の消費と排水の管理 | ●渇水・洪水・水質悪化による生産停滞 ●水資源の枯渇による原材料調達不全 ●水資源保全への対応遅れによる企業価値毀損 | ・水源の森林整備 ・排水処理技術の開発 | | — | 中 | 中 | 重要 | ↑ |
| ガバナンスの強化 | ○企業価値の向上 ○適切なリスクテイク ●コーポレート・ガバナンス、内部統制の機能不全に伴う事業継続リスク、予期せぬ損失の発生 ●脆弱なITマネジメント体制による競争力低下 ●金融危機、貿易摩擦等の不安定な政治・経済・社会情勢による組織運営への混乱や事業採算性低下 ●知的財産リスクによる事業への影響 ●自然災害や疫病・パンデミック (新型コロナウイルス、アフリカ豚コレラ、鳥インフルエンザ等) の発生による操業停滞・停止 | ・グループ従業員全員への味の素グループポリシーの浸透 ・ホットライン (内部通報制度) の整備 ・コーポレートガバナンス体制の強化 ・事業継続マネジメント (BCM) の強化 ・労働安全衛生マネジメント ・「全社重要リスク」の選定とその対応策の検討 ・知的財産リスクマネジメント ・IT管理運用規程の制定による情報セキュリティの強化 | | ガバナンス強化に向けたマネジメント変革の遅れによる組織の機能低下、機能不全による、計画実行力の低下。 | 中 | 中 | 重要 | → |
| | 製造工場の操業停滞による収益性の低、および市場の急激な縮小による収益性の低下。 | 大 | 中 | 極めて重要 | ↑ | | | |
| グローバルな競争激化への備え | ○デジタル・ディストラクションによる事業基盤改革の推進 ●デジタル技術革新・ディストラクションへの対応遅れによる主要事業の競争力低下 ○外部連携による価値共創 ○技術革新によるスペシャリティの創出 ○変化の先読みによる競争優位の確立 ●強固な参入障壁を構築できないことによる多数の競合企業の出現 | ・食品とアミノサイエンスの部門間連携強化 ・サプライチェーンマネジメントの進化 (デジタル活用、エコシステム確立等) ・デジタルトランスフォーメーションの推進 ・課題解決型R&D体制の確立 ・本社主導によるコンシューマー食品3事業 (調味料/栄養・加工食品/冷凍食品) のグローバル戦略推進 ・コンペティティブ・インテリジェンス (中長期の取り組み) ・オープン&リンクイノベーションの推進 | | 主要事業への重点化の遅れにより、重点事業における新たな付加価値の提供が遅れ、効率性、オーガニック成長が低下。 | 中 | 高 | 極めて重要 | → |
| | 小 | 中 | 注視 | ↑ | | | | |